

# 寄り添い支えたい

## 現地で「特別講義」

### 相愛大の学生ボランティア

宗門関係の相愛大学（金児院嗣嗣学長、大阪市）は10月10日から13日まで、東日本大震災の復興支援ボランティアとして学生・教職員ら24人を派遣した。

東北教区災害ボランティアセンターを拠点に2日間の支援活動を行い、津波被害に遭った石巻市・称法寺（細川雅美住職）の清掃を

行ったほか、甚大な被害を受けた地域を訪問。名取市の箱塚屋敷仮設住宅で、同センターが実施する地域支援のお茶会に参加した。同センターでは、元

コーディネーターで行の引率を務めた守屋宏司さん(40)から、復興期にある被災地の状況やボランティアに求められる行動について



の特別講義を受けた。救命救急士として東京DMAT（災害派遣医療チーム）に所属する守屋さんは「被災者

の方は立ち上がることを学ぶ学生らは真剣に聞いて進めな状態。支援なしで歩み出せるようになるまで、自立を妨げないよう配慮しながら寄り添うように支えなければいけない。深い悩み苦しみを抱える被災者にとって、心のケアはこれから必要とされる支援。しっかり勉強して、いつかその学びを現場で役立ててほしい」と語った（写真）。

音楽療法や人間心理、子ども発達学など

の触れ合いで、被災地とのつながりが実感できた。今度は友人を誘ってボランティアに来てほしい」と話していた。同大学が学生対象にボランティア派遣を実施するのは初めて。（10面に関連記事）